



目次

生産現場情報	： 努力が生んだ確かな米戦略と未来～有限会社米道ふたつ～	P 1 ～ 3
営農支援情報	： 令和 4 年産米の作柄について	P 4 ～ 5
ご 紹 介	： 「令和 4 年度施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会」開催	P 6
	「秋田米フォーラム 2 0 2 2」開催	P 7 ～ 8
	～美味しい”あきたこまち”コンテスト受賞者発表～	
	「みんなで秋田の農業のファンになろう！！」	P 9 ～ 13
	～秋田県農業応援イベント J A グループ秋田・J A 全農あきたPresents～	
	「NHK 歳末たすけあい」へ寄付しました	P14
	県内の福祉関連施設へバターを贈呈！	P14

努力が生んだ確かな米戦略と未来 ～有限会社米道ふたつい～

1. 概要

法人名：有限会社米道ふたつい

代表者：桜田 善仁

所在地：秋田県能代市二ツ井町中坪道下2－4

構成員：役員2名、正社員2名、臨時雇用（パートタイマー）5名

設立：平成16年2月



2. 法人設立の経緯

有限会社米道ふたついの前身となる生産者団体が平成13年に設立され、当時の二ツ井町長のトップセールスにより県外取引先とのパイプを構築し、首都圏を中心ににおにぎり屋チェーン「おむすび権兵衛」を展開する株式会社イワイと取引を開始しました。

その後、取引量の増加に伴い管内生産者から作業受託と精米を請け負う「有限会社米道ふたつい」を平成16年2月に設立し、ミニライスセンターを設置しました。

平成21年には、自ら農地を取得して農業経営に参画し栽培規模を順調に拡大。平成29年には取引先ニーズに応じた米販売を目指して自社精米プラントを建設しています。



経営の概要

- ・栽培面積：50ha（主力品種：あきたこまち）
- ・保有設備：ミニライスセンター（210玄米t）、精米プラント



3. 経営の特色

安全・安心な精米を生産者に届けるため、基本技術に基づいた栽培を徹底しています。また、土づくりにもこだわっており、精米後に排出される米ぬかをペレット化して水田に還元しています。日本政府が「みどりの食料システム戦略」を掲げる以前から化学肥料の削減に挑戦し、持続可能な農業を目指し、日々試行錯誤しています。

また、特徴的な販売の仕方として、「おむすび権兵衛」へ精米を出荷していることが挙げられます。注文の都度精米販売することで、新鮮で安定した品質の精米をお届けすることで、消費者のみなさんに美味しい「おむすび」として提供することができます。

秋田県内では、基盤整備等を要因として生産者の法人化が進んでいますが、法人が円滑に経営するための秘訣を訊ねると桜田代表は「人材育成が大事なポイント」と話していました。「米道ふたつ い」では、従業員にあえて細かい指示は出しません。さらには失敗しても叱責による指導はしません。与えられた仕事に対し、自分なりに取り組み、決断させ、失敗したらそこから新しいことを学ぶ。このサイクルを繰り返すことで、従業員は自然と指示を出さなくても動けるようになり、組織は円滑にまわる。さらにはチャレンジ精神も養うことができるということです。

4. 今後に向けた抱負・目標

人口減少が進む中で国民1人あたりの米消費量は減少が続いており、更にウクライナ紛争等を発端とした生産資材の高騰は落ち着きが見えないところです。

秋田県内は、生産者の高齢化等により離農が進み、規模の大きい生産者に農地集積が進んでいます。農業にとって厳しい逆風が吹く中、桜田代表は、「未来を見据えた農業が重要」と話しています。「これからは農地集積とともに販売先を見つけることが重要。特に未来の子供に対する投資が大事」と話し、将来の重要な消費者となる子供たちに対し、米の美味しさを知ってもらうための施策を検討しています。

また、近年では異常気象により安定した品質や収量の確保が難しくなっています。桜田代表は「過去の気象データに基づいた栽培だけではなく、どんな天候でも臨機応変に対応できる営農体系を構築していきたい」と話し、「米道ふたつ」の強みであるチャレンジ精神を発揮し、新たな技術や栽培体系に取り組んでいます。

桜田代表は、令和4年6月から秋田県農業法人協会会長に就任しています。今後も秋田県の農業を牽引していきます。



令和4年産米の作柄について

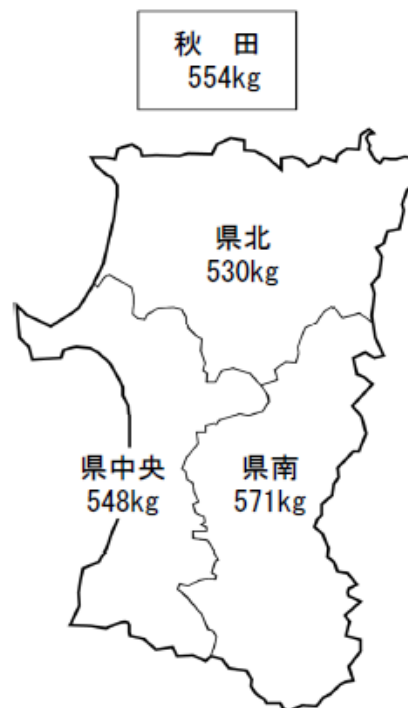
◆作柄概況

東北農政局は、12月9日に令和4年産水稻の作柄を、作況指数95の「やや不良」（農家等が使用しているふるい目幅ベース）と発表しました。

秋田県の令和4年産の作付面積（青刈り面積を含む）は88,900haで、前年産に比べ900ha減少しました。このうち子実用作付面積は82,400haで、前年産に比べ2,400ha減少しました。更にこのうち主食用作付面積は69,100haで、前年産に比べ2,300ha減少しました。

水稻の10a当り収量は554kg ※右地図参照（選別機のふるい目幅1.70mm）で、農家等が使用している選別機のふるい目幅1.90mmベースの10a当りの収量が517kgで作況指数は「95」となりました。

作柄表示地帯別の10a収量（選別機のふるい目幅1.90mm）は、県北が493kg（作況指数「94」）、中央が505kg（作況指数「94」）、県南が537kg（作況指数「97」）となりました。



※東北農政局公表資料参照
(選別機のふるい目幅1.70mm)

◆1等米比率

東北農政局秋田県拠点公表した10月31日現在の検査数量は、水稻うるち玄米が248,477トン（前年同期比86.7%）で、1等米比率は90.0%となりました。

2等以下に格付けされた主な理由は、形質（41.4%）、着色粒（36.8%）、整粒不足（16.2%）によるものとなっています。

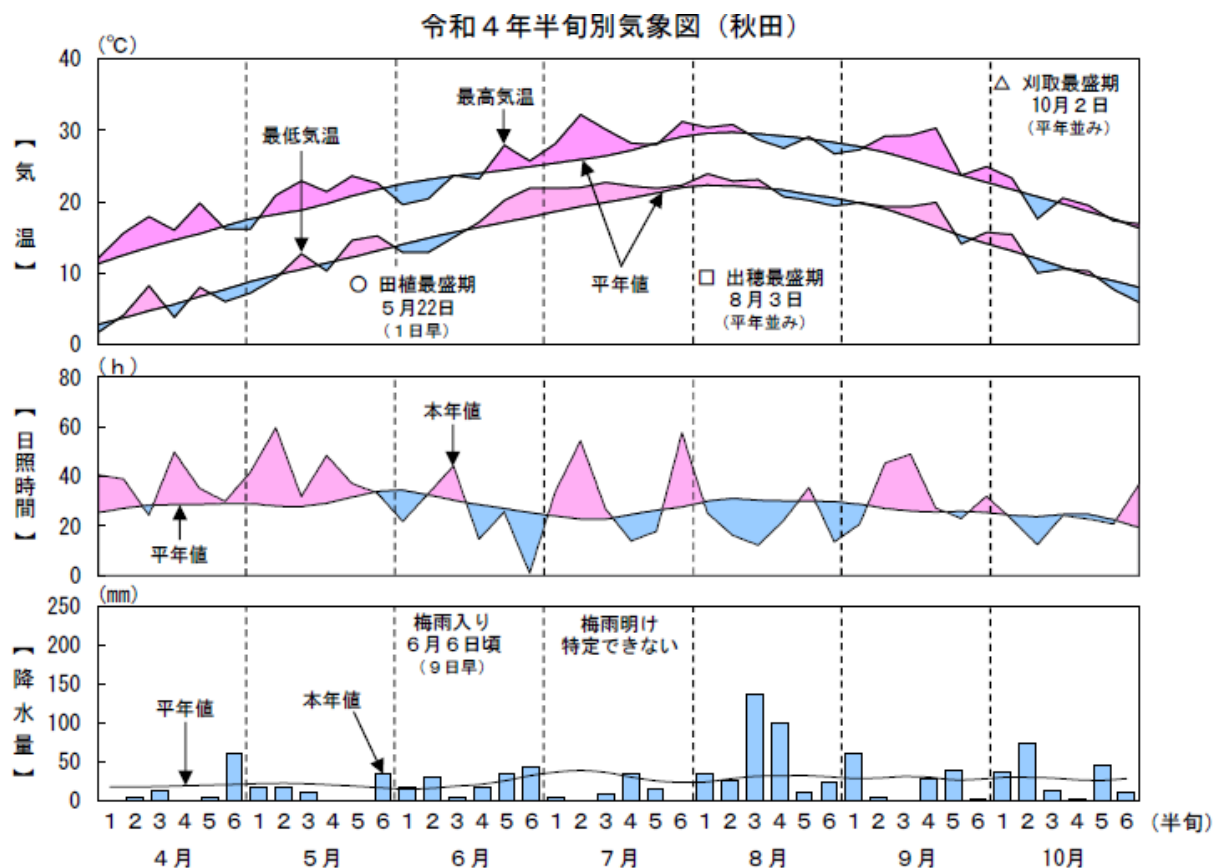


◆生育概況

6月上・中旬の低温と日照不足により初期茎数が確保されませんでした。6月下旬から8月上旬までは高温・多照で経過し、中干しが十分に実施されましたが、茎数不足は免れませんでした。あきたこまちの出穂期は、8月1日（平年差－1日）とほぼ平年並みとなりました。8月中旬からは、一転して大雨と極度の日照不足により登熟が緩慢になりましたが、9月に入って天候は回復し、刈り取りの最盛期は10月1日と平年並みとなりました。しかしながら、10月上旬も降水量が多かったため刈り取りの終期は10月19日（平年差－6日）と大幅に遅れました。

今年の気象は、あきたこまちが作付けされてから38年になりますが、播種から稲刈りまで気象変動が非常に大きく、これまで経験したことがない生育を辿り、水・肥培管理が大変難しい年となりました。

気象変動の年が多い昨今、土づくりや深耕の確保、健苗育成、適期田植え、栽植密度の確保、水・肥培管理などの基本技術を励行し、高品質・良食味の秋田米生産につなげていただきたいと思います。



資料：気象庁ホームページ

注：1 「○」は田植最盛期、「□」は出穂最盛期、「△」は刈取最盛期を示している。

2 田植期、出穂期及び刈取期の最盛期は、県平均の期日である。

3 () 内の日数の遅速は、対平年差である。

「令和4年度施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会」開催

ＪＡ全農あきたは、１２月１日～２日に「令和４年度施肥防除合理化展示圃場試験成績検討会」を開催し、県内ＪＡ、秋田県農業試験場、秋田県病害虫防除所、肥料・農薬メーカー担当者の約１３０名が参加しました。



新しい肥料や農薬の普及のほか、適切な指導により過剰な施肥・防除を防ぎ、生産コストの削減を進めるうえで重要な検討会となっています。

１２月１日は令和４年水稻生育状況と作柄、令和４年度主要病害虫の発生状況についての報告後、秋田県農業試験場の研究員や秋田県病害虫防除所の担当者からアドバイスをいただきながら各展示圃場での肥料試験・農薬試験の成績について協議しました。

１２月２日は秋田県農業試験場の原種生産部長による「水稻良食味品種の移植時期の移動による作期の拡大について」と題した講演、およびジェイカムアグリ株式会社の技術管理部長による「プラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業の実現を目指して！」と題した講演が行われました。

ＪＡ全農あきたは、今後も展示圃試験の結果を通して、県内ＪＡ、関係機関と連携し現場目線で肥料・農薬の普及活動に努めてまいります。



「秋田米フォーラム2022」開催 ～美味しい”あきたこまち”コンテスト受賞者発表～



ＪＡグループ秋田・ＪＡ全農あきたは１２月７日、今年で１０回目となる「秋田米フォーラム２０２２」を開催しました。

全国的な良食味米の競争激化や新たな他県産ブランド米に打ち勝つため秋田米の高品質・良食味米生産の取り組みをさらに進化させ、秋田米ブランドの確立に向けた取り組み強化を図ろうと開催されました。また、令和４年産デビューとなる「秋田米新品種”サキホコレ”」の情報提供と、良食味米づくりに欠かせない気候変動に順応した栽培技術を磨き、営農指導強化に向けて、秋田米の生産・流通・販売にかかる県内関係者の意思統一を図りました。

フォーラムでは、「秋田米への応援メッセージ」「味覚センサーとその活用事例紹介」と題した講演のほか、「今年の作柄と次年度の稲づくり」について講習を行いました。

また、今年で１０回目の開催となる「美味しい”あきたこまち”コンテスト」の結果発表と表彰式も行われ、県内１２ＪＡおよび１公社から推薦、出品された８２点の中から１２人が表彰されました。

コンテストで優秀な成績を収めた生産者の栽培方法の事例は、全県域で一層の品質向上をはかるため情報共有されるほか、上位５名のお米は「ザ プレミアムファイブ」として秋田県内では１２月１０日（土）から、県外では１２月中旬から限定販売されています。





最優秀賞【秋田県知事賞】佐々木喜久蔵さん（ＪＡこまち）（写真中央）をはじめ、厳選な審査を経て受賞した上位5名の皆さん

令和4年産米「美味しい”あきたこまち”コンテスト」表彰

褒 賞		管内JA	受 賞 者
最優秀賞	秋田県知事賞	JAこまち	佐々木喜久蔵
優秀賞	一般財団法人日本穀物検定協会会長賞	JAうご	佐 藤 正 弘
	秋田県産米改良協会会長賞	JAあきた湖東	猿 田 政 博
	秋田県農業協同組合中央会会長賞	JA秋田なまはげ	伊 藤 稔
	全農秋田県本部運営委員会会長賞	JA秋田しんせい	阿 部 静 夫
優良賞	全農秋田県本部県本部長賞	JA秋田たかのす	武 石 博
	全農秋田県本部県本部長賞	JAあきた白神	石 山 金 由
	全農秋田県本部県本部長賞	JA秋田やまもと	平 澤 喜代美
	全農秋田県本部県本部長賞	JA秋田しんせい	佐 藤 角 栄
	全農秋田県本部県本部長賞	JA秋田おばこ	武 藤 秀 一
	全農秋田県本部県本部長賞	JA秋田ふるさと	佐 藤 清
	全農秋田県本部県本部長賞	JAこまち	高 橋 征 志
特別賞 *当コンテストで三度入賞した生産者を対象	全農秋田県本部県本部長賞	JA秋田なまはげ	伊 藤 稔

※敬称略

「みんなで秋田の農業のファンになろう！！」
～秋田県農業応援イベント JAグループ秋田・JA全農あきたPresents～



JAグループ秋田・JA全農あきたは、12月18日、秋田市のイオンモール秋田でコロナ禍による消費の停滞や海外情勢等を受けた生産資材価格の高騰、自然災害等で農業生産に影響を受けている県内組合員・生産者を応援するため、農業応援イベント「みんなで秋田の農業のファンになろう！！」を開催しました。県内の皆さんにもっと秋田の農業に「ふれて、知って」もらいたい、秋田の農畜産物を食べて、観ることで、秋田の農業を応援してもらいたいという思いから開催したこのイベントは、多くの来場者で賑わいました。

★JA青年部青果物直売ブース



JA青年部のみなさんが、山の芋、とんぶり、白神ねぎ、椎茸、りんごなどの県産農産物を販売しました。お買い得価格に足をとめるお客様で賑わいました。

★JA全農あきた精米、加工品直売ブース



↑JA全農あきたが運営するインターネットショップ「JAタウン：おらほの逸品館」で販売中の商品をPRしました。

←秋田県産「サキホコレ」を目当てに来場して頂いたお客様もいました。「サキホコレ・あきたこまち・淡雪こまち食べ比べセット（各300g）」は準備した50セットが完売！購入者には秋田県産ブレンド米「タベテーナ」300gがおまけにつくなど、定着した「あきたこまち」以外の品種もPRしました。

★秋田県産の花を使用した「親子でクリスマスフラワーアレンジメント」体験



秋田県産花きを使ったワークショップを開催しました。秋田県産の洋菊ピンポンマムや、バラ、ストックなどを準備し、秋田県花卉組合青年部のみなさんが講師になって、参加者にアドバイスをしました。

参加した親子は協力しながら、世界に一つしかないクリスマスフラワーアレンジメントを完成させました。



★秋田米ラインアップスタンプラリー（小学生以下対象、先着1,000名）



小学生以下の子どもたちを対象に秋田県産米銘柄のロゴマークスタンプを集めてもらいました。イオンモール5か所に設置したスタンプを集めると、もれなく風船のプレゼントと県産農産物などが当たるゲーム（「輪投げ」または「ボールすくいゲーム」どちらか1回）にチャレンジできることから、多くの子どもたちが参加してくれました。スタッフは子供たちに秋田県産米を知ってもらおうと「サキホコレスタンプだよ！」と声をかけたり「あきたこまち～」と声に出しながらスタンプを押す子ども達などの姿が見られました。



★秋田県プロスポーツチームとのコラボイベント



県内プロスポーツチームのキャラクターが大集合しました！

写真左から：

◆バスケットボール「秋田ノーザンハピネッツの**ビッキー**」

◆サッカー「ブラウブリッツ秋田の**ブラウゴン**」

◆ラグビー「秋田ノーザンブレッツの**あんべえ**」



「JA全農あきたと秋田ノーザンハピネッツが」JA秋田おぼこ、大曲農業高校と共に取り組んだ「HAPPY TOGETHER ONE」プロジェクトで収穫した「サキホコレ」300gを先着150名様にプレゼントしました。



秋田県の農業に関するクイズ大会が小学生以下を対象に開催されました！最後まで勝ち残った3人の子供たちには各チームのオリジナルグッズがプレゼントされました。



直売ブースでお買い物をしてくれたお客様には「ガラポン」抽選券が配布されました。1等はブラウブリッツ秋田の選手のサイン入り公式サッカーボールが当たりました。



★農協牛乳（200ml）を先着1,000名へプレゼントしました。

生乳生産に必要な飼料などの価格が高騰するとともに、長引くコロナ禍の影響により、業務用を中心とした牛乳・乳製品の需要も回復してないことから、牛乳をたくさん飲んでいただき、消費者の方も酪農家も元気になってもらいたいとの想いを込めて牛乳を無料配布しました。



★「ごはんの凄さを知ろうAkita KOMEFES!!」

この日はイオンモールにて「ごはんの凄さを知ろうAkita KOMEFES!!」が開催され、「サキホコレ」「あきたこまち」「ひとめぼれ」「淡雪こまち」「つぶぞろい」の5種類のごはんの食べ比べコーナーが設けられました。また、JA全農あきたの若手職員で構成されるプロジェクトチームが開発に携わった秋田県産にらを使用した

「にらしょうゆ」を含む30種類以上のご飯のお供が大集合しました。



ほかにも、JA青年部、花actあきた、ミスあきたこまち、ミス・フレッシュ秋田による県産農産物のPRなども行われ、会場は終始賑わいました。

JAグループ秋田・JA全農あきたでは、このようなイベントなどを通じて、県産農畜産物の販売促進や県内農業の現状の理解醸成につなげ、生産者と消費者の「懸け橋」となるよう努めていきます。



「NHK歳末たすけあい」へ寄付しました



NHK秋田放送局 石井局長（左）へ目録を
手渡すJA全農あきた 椎川副本部長

JA全農あきたでは今年度も職員や関連会社社員などによる募金を実施し、92,871円を「NHK歳末たすけあい」へ寄付しました。

JA全農あきたの椎川浩副本部長が12月12日、NHK秋田放送局を訪れ、石井令入局長へ目録を手渡しました。全農グループは、社会貢献活動の取り組みの一環として「NHK歳末たすけあい」等へ寄付をおこなう全国統一運動を毎年実施しています。

募金は「共同募金会」を通じて、国内の福祉施設や支援を必要とする方々のために役立てられます。

県内の福祉関連施設へバターを贈呈！

秋田県牛乳普及協会（事務局：JA全農あきた）は12月19日、秋田市の母子生活支援施設「秋田婦人ホーム」に全国酪農業協同組合連合会製造のバター「酪農家バター（20g）」40個を贈呈しました。

また、12月13日～19日にかけて、県内福祉関連施設12か所に510個のバターを提供しており、少し早いクリスマスプレゼントとなりました。



県内の福祉関連施設へのバター提供の取り組みは今回で3回目となります。同協会の吉田良会長は「今年は牛乳・乳製品の値上げもあり、昨年以上に年末年始の不需要期の処理不可能乳の発生が懸念されている。牛乳・乳製品の魅力をアピールし普及推進することで、少しでも消費拡大することに期待している」と話しました。



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第35号 令和5年1月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462